

# 令和7年度金津東小 学校評価書 No.1

1・・・よくあてはまる 2・・・ややあてはまる 3・・・あまりあてはまらない 4・・・まったくあてはまらない

			前期				後期				成果と課題	対応策・向上策
			1	2	3	4	1	2	3	4		
豊かな心	児童	①自分は、毎日学校へ通うのが楽しい。	76.4	20.2	3.4	0.0	60.5	33.7	5.8	0.0	後期に入り「よくあてはまる」と答えた児童が「ややあてはまる」の項目に移行している児童が増えたことは気にかかるが、前期、後期ともに「あてはまる」と答えた児童が90パーセントを越え、スクールプランの目標は達成している。今年、ペットトークの講演会を行い、物事を肯定的にとらえること、「自分ならではの」と気持ちを高めることの大切さを児童とともに考えてきた。声かけの言葉をかえるだけで、ネガティブな視点から前向きな気持ちにかえていくことができる。前向きな気持ちで楽しく学校生活を送れるよう、これからもペットトークを推奨していく。	学校を楽しんでいる場面について児童から情報を集め、理解を深める。ふれあいトークでは、児童の話を親身に聞き、交友関係を把握し、担任も日々の思いを話せるようなクラスの雰囲気づくりに努めていく。今後も児童が楽しい気持ちで学校生活を送り、自然とペットトークが出てくるよう、教職員自身も明るく元気な声かけを行う。また、ホームページでは、学年ごとに行事や授業の様子を掲載してきた。来年度も学校の児童の様子がより分かるような写真を発信していく。
	保護者	①わが子は、学校に楽しく通っている。	63.3	34.4	2.2	0.0	63.2	31.0	5.7	0.0		
	教職員	①本校の子どもたちは、楽しく学校生活を送っている。	70.0	30.0	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0		
豊かな心	児童	②友達や先生、地域の人に、元気よくあいさつすることができる。	74.2	18.0	7.9	0.0	62.8	29.1	8.1	0.0	前期、後期ともに「当てはまる」と答えた児童が90パーセントを越え、スクールプランの目標を達成している。後期になり寒くなると、どうしても挨拶の声が小さくなる児童が見受けられる。委員会活動では、運営委員の児童が朝廊下に立ち、登校してくる児童に「自分から進んで挨拶」を心がけ、生活チャレンジ週間の時には、各学年が玄関前に立ち、元気な挨拶をする取り組みをしている。これらをきっかけにして「自分から進んで」を意識して挨拶できる児童が増えていると感じている。	ほかほかタイムでは、段階的にモデルを提示し元気で明るい挨拶の取り組みを行ってきた。1回目は自クラス、2回目は異学年交流で行った。上級生が下級生にお手本を見せることで、上級生は責任があるという自覚をもち、下級生は上級生のようにになりたいと自然と行いが身につけていくと思われる。そのため、今後も異学年交流を続けてお互い刺激になるような活動を取り入れていく。可能ならば、他学校との交流を増やし、どんな人にも進んで挨拶をし物おじしない子を増やす。「自分から進んで」の次は「目を見て」を目標に取り組みめるとよい。
	保護者	②わが子は、家族や地域の人に、元気よくあいさつをすることができる。	32.2	50.0	16.7	1.1	31.0	51.7	17.2	0.0		
	教職員	②自分は、児童が場に合ったあいさつができるよう適切に指導している。	90.0	10.0	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0	0.0		
豊かな心	児童	③友達のよいところをみつけたりやさしくしたりすることができる。	77.5	19.1	2.2	1.1	70.9	25.6	3.5	0.0	前期、後期ともに「あてはまる」と答えた児童が90パーセントを越え、スクールプランの目標を達成している。今年、縦割り班活動が増えたことで、集団活動をする場が増えた。他者と触れ合う機会が増え、今まで知らなかったことを知れたり、お互いのよさを感じとったりすることができたように思う。	後期は「まったくあてはまらない」児童が0%になったことは喜ばしい。今後も帰りの会や道徳、学活の時間等で、友達のよさを見つけたり、自己肯定感を高めたりする活動に取り組んでいきたい。友達に優しく接したり助けてあげたりする児童は多いが、今後はそれに強さをプラスして、素直に「よいことはよい」「悪いことは悪い」と言える関係作りができるよう働きかける。
	保護者	③わが子は、誰とでも優しく関わり、集団の中で良好に生活している。	41.1	53.3	5.6	0.0	42.5	52.9	4.6	0.0		

# 令和7年度金津東小 学校評価書 No.2

		1	2	3	4	1	2	3	4	成果と課題	対応策・向上策	
確かな学力	児童	④友達の前で、自分の考えや意見を発表したり書いたりすることができる。	68.5	24.7	5.6	1.1	61.6	29.1	9.3	0.0	児童の回答が「1,2」を合わせると90.7%であることから、スクールプランの「自分の考えや思いを表現することができる児童」90%以上を達成することができている。また、「まったくあてはまらない」と回答した児童は0%になった。授業に加え、毎月実施したエンジョイタイムやぼかぼかタイム（ソーシャルスキルトレーニング）などの縦割り活動が増えたことにより、児童一人一人が発表したり発言したりする機会が増えたことの結果だと考える。保護者の回答も1,2を合わせると91.9%と前期と比べて2%向上した。これは、エンジョイタイム等の様子をホームページ等を使って保護者に伝えた成果だと考える。	引き続き、各教科の授業の充実を図るとともに、縦割り活動やソーシャルスキルトレーニングを次年度も継続し、取組をより確かなものにする。児童一人一人が安心して自分の思いや考えを表現できる場を意図的に設定し、発表や話し合いの機会を大切にしていける。また、ICTを積極的に活用し、自分の考えを整理・可視化するとともに、互いの考えを参照し合うことで、より深い学びにつなげる。他者の意見を踏まえて自分の考えを再構築する力の育成を目指す。
	保護者	④わが子は、自分の思いや考えを自分なりにまとめて家族や友だち、先生等に伝えようといえる。	30.0	58.9	11.1	0.0	28.7	63.2	8.0	0.0		
	教職員	④自分は、ICT機器等を活用し、児童が自己の考えを広げ深めるような授業を意識的に行っている。	40.0	60.0	0.0	0.0	36.4	54.5	9.1	0.0		
確かな学力	児童	⑤毎日の授業内容がよくわかる。	74.2	23.6	1.1	1.1	74.4	20.9	4.7	0.0	学年の後半に入り、授業内容が難しくなっているものの、「毎日の授業がよくわかる」と回答した児童のうち、「1.あてはまる」「2.どちらかといえばあてはまる」を合わせると95.3%となり、スクールプランの数値目標を達成することができている。また、保護者においても約90%が「1・2」と回答している。一方で、「3.あまりあてはまらない」「4.まったくあてはまらない」と回答した児童もいることから、個に応じた支援や分かりやすい授業づくりを一層工夫し、否定的な回答を減らしていけるよう努めていきたい。	職員同士で授業を見合ったり、研究会を行ったりする校内研修を次年度も継続し、授業改善に組織的に取り組んでいく。互いの実践から学び合い、成果や課題を共有することで、より分かりやすい授業の実現を目指すとともに、教員自身も学び続けていく必要がある。また、児童が主体的に学習に取り組めるよう、学習内容に興味・関心をもてる導入の工夫や課題設定を大切にしながら、教材研究の一層の充実にも努め、児童の学び意欲の向上につなげる。
	保護者	⑤わが子は、授業がわかると言っている。	43.3	47.8	7.8	1.1	42.5	47.1	8.0	2.3		
	教職員	⑤自分は、わかりやすい授業を行い、児童に「わかる」「できる」を実感させている。	50.0	50.0	0.0	0.0	27.3	72.7	0.0	0.0		
確かな学力	児童	⑥本を読むことが好きである。	60.7	25.8	9.0	4.5	54.7	20.9	22.1	2.3	「本を読むことが好きである」と回答した児童のうち、「1・2」を合わせた割合は前期より11.8%減少し、「3」と回答した児童は13.1%増加した。特に高学年で本離れの傾向が見られる。要因としては、読書時間の確保が難しいことや、家庭での余暇の過ごし方の多様化などが考えられる。一方で、約7割の児童が読書に親しんでいる。読書月間における読書パズルや読書ビンゴなどの取組を委員会中心に実施したことや、放送やスカイメニューで新刊紹介を行ったことが、読書への関心を高める一因となっている。	引き続き、国語の授業等を通して読む力の育成を図るとともに、物語や説明文の学習を通して読書の楽しさや奥深さを実感できる授業づくりを進めていく。発達段階に応じた本の紹介や読み聞かせなども取り入れながら、児童が本に親しむ機会を意図的に設定する。また、家庭読書の日を継続して実施し、心の豊かさを育む観点からも、家庭で落ち着いて本に向き合う時間を大切にしていける。そのために、学校だよりやホームページ等を通して保護者への啓発を行い、家庭における読書の意義や効果についての理解を促し、学校と家庭が連携しながら読書習慣の定着を目指していく。
	保護者	⑥家庭でも読書の機会を設けている。	14.4	41.1	38.9	5.6	13.8	37.9	42.5	5.7		
	教職員	⑥自分は、読書活動に十分親しむように児童に促している。	50.0	50.0	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0	0.0		

令和7年度金津東小 学校評価書 No.3

		1	2	3	4	1	2	3	4	成果と課題	対応策・向上策
健やかな 身体	児童	⑦東っ子タイムや昼休みに、すすんでマラソンや運動に取り組んでいる。	67.4	22.5	7.9	2.2	64.0	29.1	7.0	0.0	<p>児童の回答1・2を合わせると、前期89.9%、後期93.1%、通年平均で91.5%となった。昨年度の数値（前期・後期・通年ともに86.3%）をいづれも上回っており、マラソンカードの刷新や学級単位での取り組み、低中高学年ごとの目標設定といった今年度の活動が成果として表れたと考える。</p> <p>保護者の回答に関しては、昨年度と比較して前期の回答1・2の割合が4%上昇した。一方で、後期については横ばいである。マラソン期間である前期に数値が伸びた背景には、学校側からの働きかけが影響しているのではないだろうか。</p> <p>昨年度のアンケート結果から、児童は「他者と協力して取り組む活動」に意義を感じる傾向があることが分かった。また、前期のマラソン期間は肯定的な回答（1・2）が低かったため、今年度は改善策として、マラソンカードの刷新や学級単位での取り組み、低中高学年ごとの目標周数の設定を行った。これらの取り組みによって、児童と教員の双方が目標を明確に持つことができ、意欲的な活動につながったと考える。次年度以降もこの形を継続し、より良い活動につなげていく。</p> <p>業間活動や体育などでの運動の様子については、今後も継続して学校ホームページ等を通じて、保護者へ積極的に周知していく。</p>
	保護者	⑦わが子は、体を動かすことが好きで、すすんで運動しようとしている。	43.3	35.6	18.9	2.2	36.8	33.3	28.7	1.1	
	教職員	⑦自分は、業間運動で体力が向上するよう、児童に指導、支援した。	70.0	30.0	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0	
健やかな 身体	児童	⑧早寝、早起き、朝ごはんに気をつけてすごすことができる。	73.0	19.1	5.6	2.2	60.5	34.9	4.7	0.0	<p>児童・保護者ともに回答1・2が90%を超えており、スクールプランの数値目標である「規則正しい生活習慣が身につけていると感じる児童・保護者90%以上」を達成した。</p> <p>チャレンジ週間を継続している成果と考える。今後も学校教育全体を通して積極的に働きかけていく。</p>
	保護者	⑧ わが子には、規則正しい生活習慣（早寝早起き・食習慣など）を意識させている。	35.6	57.8	5.6	1.1	36.8	56.3	6.9	0.0	
	教職員	⑧自分は、児童に早寝・早起き・朝ごはんの指導を通して、規則正しい生活習慣の定着を図った。	50.0	50.0	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0	
健やかな 身体	児童	⑨テレビ、ゲーム、SNS利用について、親子で話し合ったルールを守っている。	77.5	14.6	4.5	3.4	67.4	27.9	4.7	0.0	<p>スクールプランでは「『東っ子スマートルール』で決めたルールを守っていると感じる保護者90%以上」を目標としているが、回答1・2の数値は前期84.4%・後期79.3%・通年平均81.8%となった。</p> <p>休業前に各学年のお便り等で家庭でのルール設定を書く欄を設けて、休業中の家庭生活について意識できるようにした。</p> <p>保護者への質問を「わが子には、テレビ・ゲーム・SNS利用に等について、家庭でルールを決めて守らせている（守らせようとしている）」とすることで、保護者の意識向上を促す。</p> <p>今後も継続することで児童保護者との連携を図っていく。</p> <p>チャレンジ週間を継続して行った成果が表れてきたと考える。教員の積極的な働きかけは有効であると考えられるため、今後も学校教育全体を通して積極的に働きかけていく。</p> <p>ルールを守ることが目的になっている可能性があるため、メディアリテラシーの啓発や、何のためのルール作りなのかを意識させる。</p> <p>今後も、全校で同じように取り組んでいくことで、児童保護者への啓蒙活動になるようにする。</p> <p>タブレットについては、学習以外の不適切な場面での使用が行われないよう、年度初めや学期末など、定期的に使い方の確認を行うことを検討する。また、家庭で児童と保護者が話す機会を増やすようにすることで、家庭での意識向上を促す。</p>
	保護者	⑩わが子は、テレビ・ゲーム・SNS利用等について、家庭でルールを決めて守っている(守ろうとしている)。	32.2	52.2	12.2	3.3	23.0	56.3	19.5	1.1	
	教職員	⑩自分は、テレビ、ゲーム、SNS利用等について、家庭でルールを話し合うよう児童に促した。	80.0	20.0	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0	

# 令和7年度金津東小 学校評価書 No.4

		1	2	3	4	1	2	3	4	成果と課題	対応策・向上策	
健やかな 身体	教職員	⑨自分は、日常生活や防災訓練などで、安全に対する指導を児童に行った。	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	すべての教職員が安全指導を適切に行っていることが分かる。	緊急時対応の職員研修を適宜行っていく。繰り返し行っていく。 今後も、職員会議や終礼、児童理解などを含めて教員間での情報共有や連携を行っていく。
	児童	⑩地域の学習やあわら市の行事に参加して、ふるさとやあわら市のことが好きと感じる。	69.7	25.8	2.2	2.2	66.3	26.7	7.0	0.0	地域に興味をもち、「ふるさとが好き」と答える児童は肯定的評価で90%を超えている。地域再発見ウォークでは、5・6年生が事前学習で得た情報をクイズなどで紹介したり、事後学習で動画や掲示物を作成したりと、アウトプットの経験を積むことができたが、多くの体験に対しては、事前・事後学習の機会はまだ十分とは言えない。児童が地域を「知る」だけで終わらず、「愛着」を感じるようになることが課題である。また、多忙な中でも、ふるさと学習に対する教員の意識を高めることも求められる。	事前学習で、活動の背景にある歴史や、準備を支える地域の方の思いなどを学ぶ機会を作る。事後学習では動画づくりや掲示物、振り返りなど、学年に応じた学習を設定する。
信頼される 学校	保護者	⑪わが子は、地域の行事等に積極的に参加し、ふるさとに愛着を持っていると感じる。	25.6	55.6	18.9	0.0	21.8	57.5	19.5	1.1		
	教職員	⑫自分は、地域の行事や地域での体験活動をする事の大切さを児童に指導している。	40.0	60.0	0.0	0.0	36.4	63.6	0.0	0.0		
信頼される 学校	保護者	⑭学校は、学年通信や学校通信、Home & School、ホームページなどを通じて教育活動内容を適切に発信している。	48.9	50.0	1.1	0.0	55.2	42.5	2.3	0.0	Home & Schoolでの情報提供や双方向のやりとりが定着してきている。また、ホームページの更新が定期的にスムーズに行われていることで、情報発信の意識も高まったと言える。	今年度は、学校のペーパーレス化が進み、Home & Schoolの配信やホームページの更新も定期的に行われるようになった。今後も必要な情報を適宜発信し、保護者との情報の共有を行う。
	教職員	⑩自分は、学校・学年だよりやHome&School、ホームページなどで情報を発信し、情報公開に努めた。	60.0	40.0	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0		
信頼される 学校	教職員	③自分は、関係機関と連携をとったり、校内で情報を共有したりして、課題を抱える児童への支援を行っている。	90.0	10.0	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0	必要と思われる児童やその保護者に対して、関係機関に丁寧に繋がっている。また、個別のサポートについても必要な会議を開いている。しかし、個別のサポートが不十分と感じている職員もいる。	校内での情報共有の方法を工夫したり、毎週行われる児童理解の時間を利用したりして、チームでサポートする体制を整えていき、学校全体で児童を支える意識を高めていく。

提 案		対 応 策 ・ 向 上 策
外部評価	アンケートの目標を、何を達成するかの成果目標から、何を継続するかの努力目標にすることで、心理的なハードルも下がり、行動しやすくなったり、行動の質を上げるための具体的な反省ができるようになるのではないかと。	努力目標に置きかえられる項目は、スクールプランの数値目標と連携させながら見直しを行う。
	ICT機器を活用した授業の取り組みについて否定的な回答がなされていることにはヒアリングなどを通して対応策をお願いしたい。	今後もDXスクール化を目指して職員研修を充実させる。
	タブレットなどの機器やSNSなどの適切な活用については今後も連携して取り組んでほしい。	市教委のガイドラインに従い、家庭とも連携を密にしながら、学習効果の高い活用について研究する。